

Japan Society of Sport Sociology

日本スポーツ社会学会

第21回大会

大会プログラム

会 期

2012年3月18日(日)・19日(月)

会 場

熊本大学 教育学部

大会概要

開催期間

2012年3月18日(日)・19日(月)

会 場

熊本大学 教育学部

〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2丁目40-1

主 催

日本スポーツ社会学会

日 程

	18 日(日)		19 日(月)
9:00			
10:00			一般発表 (会場 A:2-B、会場 B:3-A、会場 C:3-B)
11:00	理事会 (会議室:2-C)	学生会員フォーラム (会場 A:2-B)	実行委員会企画講演(シンポジウム会場:4-A) 徳野貞雄氏「生活農業論から見た地域社会の変化」
12:00	受付 (エントランスホール)		昼 食
13:00	一般発表 (会場 A:2-B、会場 B:3-A、会場 C:3-B)		国際交流委員会シンポジウム 「アジアからみた開発とスポーツ」 (シンポジウム会場:4-A)
14:00	研究委員会 シンポジウム 「スポーツと教育」 (シンポジウム会場:4-A)	研究委員会 シンポジウム 「政治とスポーツ」 (会場C:3-B)	一般発表 (会場 A:2-B、会場 B:3-A、会場 C:3-B)
15:00			
16:00	総 会 (シンポジウム会場:4-A)		
17:00	移 動		
18:00	懇親会		
19:00			

プログラム

3月18日(日)					
	会場A (2-B講義室)	会場B (3-A講義室)	会場C (3-B講義室)	シンポジウム会場 (4-A講義室)	会議室 (2-C講義室)
10:00～ 12:00					理事会
11:00～ 12:30	学生会員フォーラム				
12:30～ 13:50					研究委員会シンポジウム打合せ
	座長:高橋義雄(筑波大学)	座長:リー・トンプソン(早稲田大学)	座長:黒田勇(関西大学)		
13:00～ 13:30	石原豊一(立命館大学大学院) 逃避の場としてのプロスポーツ: 独立野球リーグ選手へのアン ケートの分析から	橋本政晴(信州大学) メガスポーツイベントと地域の社会関係 の再編過程	谷口勇一(大分大学) 学校(教師)は総合型地域スポーツ クラブをどうみているのかー変化と不 変の「揺らぎ」の中でー		
13:30～ 14:00	小坂美保(山口福祉文化大学) 社会人野球におけるクラブチー ムの存在意義に関する研究ー 中・四国クラブ野球リーグの現状 からー	後藤貴浩(熊本大学) 2002年W杯キャンプと中津江村	原 祐一(岡山大学) 体育という教育としてのスポーツ実 践がもつ潜在的機能ー小学校教師 の評価観を手掛かりにー		
14:00～ 17:00			研究委員会シンポジウム 「政治とスポーツスポーツをめぐる ポリティクスを再考するー」 [シンポジスト] 齊藤健司(筑波大学) 尾崎正峰(一橋大学) 中島信博(東北大学) [コメンテーター] 山下高行(立命館大学) 伊藤公雄(京都大学) [コーディネーター] 坂 なつこ(一橋大学)	研究委員会シンポジウム 「スポーツと教育ーその蜜月の 現在と過去ー」 [シンポジスト] 玉木正之(スポーツライター) 中江桂子(成蹊大学) 石井昌幸(早稲田大学) [コーディネーター] 菊 幸一(筑波大学)	
17:00～ 18:00				総会	

プログラム

3月19日(月)					
	会場A (2-B講義室)	会場B (3-A講義室)	会場C (3-B講義室)	シンポジウム会場 (4-A講義室)	会議室 (2-C講義室)
		座長: 前田博子(鹿屋体育大学)	座長: 菊 幸一(筑波大学)		
9:00~ 9:30		萩原 卓也(京都大学大学院) 痛みで結ばれる関係性からジェンダーを考えるー女子プロレスラーへのフィールドワークよりー	白石義郎(久留米大学) カレッジ・フットボールにおけるNCAAと強豪校の葛藤ーSMU処分 の事例		
9:30~ 10:00		熊安貴美江(大阪府立大学) スポーツ環境における指導者と選手の適切な行為(4)ー女性選手のセクシュアル・ハラスメント経験/評価/受容とスポーツタイプとの関連	西田 敬志(順天堂大学大学院) 保健体育系大学生による児童生徒の適応支援活動の有効性とシステム整備における課題		
	座長: 井上 俊(大阪大学)	座長: 水上博司(日本大学)	座長: 甲斐健人(奈良女子大学)		
10:00~ 10:30	樋熊彩美(東京学芸大学大学院) スポーツ行為の分析における「体験と経験の一致」についての一考察	酒井 求(筑波大学大学院) スポーツクラブの制度化と町内会に関する社会学的研究ー「やんちゃ」文化を中心とした六木少年野球の事例ー	北 知世(東京学芸大学大学院) 「マンガ・オリジナルのスポーツ映画」に関する内容分析		研究委員会
10:30~ 11:00	嘉門良亮(筑波大学大学院) 山村における「新しい公共」とスポーツー福島県南会津町の事例ー	日吉祐太(北海道大学教育学院) 世帯経営からみるスポーツ少年団への参加	木村翔太(東京学芸大学大学院) 「なぜダンサーは鏡を見るのか」ーダンス文化における「視線」の社会的意味ー		
11:00~ 12:00				実行委員会企画講演会 「生活農業論から見た地域社会の変化」 演者: 徳野貞雄(熊本大学)	
13:00~ 14:30				国際交流委員会シンポジウム 「アジアからみた開発とスポーツ」 [シンポジスト] Jay Mandle氏(コルゲート大学) 金 明美(静岡大学) 石岡丈昇(北海道大学)	
	座長: 大沼義彦(北海道大学)	座長: 西山哲郎(関西大学)	座長: 高峰修(明治大学)		
14:30~ 15:00	伊藤恵造(秋田大学)ほか スポーツをめぐる住民組織の変容とその論理ー郊外化する手賀沼周辺を事例としてー	大津克哉(東海大学)ほか 国際オリンピック委員会による「地球環境問題」へのアプローチーOlympic Games Impact(OGI)の観点からー	山崎 豪(北海道大学教育学院) ブラインドサッカーにおける「共同的身体」の構築過程		
15:00~ 15:30	村田周祐(筑波大学大学院)ほか 地域スポーツイベントと地域社会をめぐる関係性と表象性ー手賀沼トライアスロン大会を事例としてー	舛本直文(首都大学東京) ユースオリンピック大会(YOG):トランスナショナリズム希求のニュー・パラダイム	渡 正(徳山大学) 「障害」の相互行為論達成:車椅子バスケットボールを事例にして		
15:30~ 16:00	植田 俊(筑波大学大学院)ほか スポーツクラブによる地域環境保全活動の展開ー手賀沼のヨットクラブを事例としてー	影山 健(元愛知教育大学) グローバル化時代におけるスポーツ反対運動についての社会学的考察	奥田睦子(金沢大学) ドイツにおける障害者のリハビリテーション・スポーツに関する一考察ー身体管理の手段と文化としての遊びの対立の超克ー		
	座長: 白石義郎(久留米大学)	座長: 山下高行(立命館大学)	座長: 山本教人(九州大学)		
16:00~ 16:30	佐藤貴浩(東京学芸大学大学院) 演題 = 柔道における「参った」の意味に関する社会学的一考察	王 篠舟(北京体育大学) 中国のマスメディア報道における「中国女子バレー」ヒーロー像の変容ー1981年と2011年の女子バレーボールワールドカップ報道を中心にー	岡田光弘(国際基督教大学) スポーツ・コミュニケーションの「経験的」研究ービデオ・エスノグラフィーによるアプローチー		
16:30~ 17:00	幾竹俊介(東京学芸大学大学院) 体育授業における「挨拶」とは何かー儀礼的行為の持つ意味の重層性とその「困難さ」についてー	Leitner Katrin Jumiko(筑波大学大学院) 日本におけるアスリートのキャリア形成に関する特徴と課題ーオーストリアとの比較ー	高橋豪仁(奈良教育大学) 応援妨害予防等請求事件についての一考察ープロ野球は文化的公共財なのか		

【テーマ】 スポーツと教育～その蜜月の現在と過去～

【シンポジウムの趣旨】

スポーツ社会学会が、なぜ、今「スポーツと教育」の関係を問うのか、その必要性はいったいどこにあるのか。20世紀のスポーツは、政治や経済、社会からの欲望や期待に応えつつ、教育としてのスポーツ＝体育というコンセプトを基底としてその社会的正当性を維持し、発展させてきた。このフィルターからは往々にして「スポーツは善い」という価値的前提のもとに「問い」が構成され、それは「体育・スポーツ」という表記で体育とスポーツの認識論的区別を曖昧にしてきた体育学領域からの「スポーツ」社会学の「問い」の認識論的限界と重なり合うところがある。これは、スポーツ現象を対象とした構造・機能主義的な理論的アプローチの限界を徹底的に追求せず、その批判を社会学に一任して、スポーツという対象の独自性からみた批判理論を展開できなかつたところにもあるように思われる。その結果、スポーツ社会学は、一方で教育としてのスポーツの認識論的限界から新たな可能性への「問い」を発見することができず、他方で文化としてのスポーツをもっぱら批判理論によって展開することで事足りるとするといったような二極化のなかで、両者の接点が見出せないまま推移しているようにもみえる。

この間、3.11大震災以降のスポーツ界は、「復興」をキーワードとしてそれに資するスポーツの役割を強調してきているが、その認識の前提にあるのはやはり「教育としてのスポーツ」の価値なのであろうか、あるいは「文化としてのスポーツ」のそれなのであろうか。また、それは、誰が、どのように必要とし、期待するものなのであろうか。スポーツ社会学は、両者のコンセプトと社会との関係をどのようにとらえ、何を問題とし、どのような「スポーツと教育」の21世紀的ビジョンを描くことができるのであろうか。

本課題研究シンポジウムでは、このような問いから出発して、1年次の視点として「時間」軸を設定し、今日的な「スポーツと教育」の蜜月関係を歴史的に相対化(解体)することを試みる。具体的には、非研究者(スポーツライター)からみた今日的な体育とスポーツの概念の曖昧性に対する批判的見解に耳を傾けながら、それに歴史社会的に応える形で、プレ・モダンの身体及びプレ・モダンからモダンへのスポーツをめぐる社会的担い手の変化やその<教育的-文化的>地平(両者のつながりや生成)の変容(ダイナミズム)を辿り、議論を深めたい。

【シンポジスト及びコーディネーター】

玉木正之(スポーツライター) 「体育とスポーツ」をめぐる今日的課題

中江桂子(成蹊大学) プレ・モダンの身体—つながりと価値生成の現場をめぐる—

石井昌幸(早稲田大学) プレ・モダンからモダンのスポーツへ—貴族・ジェントルマンからみたスポーツ—

【コーディネーター兼コメンテーター】

菊 幸一(筑波大学)

【テーマ】 政治とスポーツ～スポーツをめぐるポリティクスを再考する～

【シンポジウムの趣旨】

2011年は、日本におけるスポーツ状況の画期となる年となったといえるだろう。

戦後初めて国会において超党派により提案され、成立したスポーツ基本法、女子サッカー代表(「なでしこジャパン」)のワールドカップ優勝及び国民栄誉賞の授与など、スポーツ界に大きな注目が集まる出来事が続いた。さらに3月11日の東日本大震災をめぐって、スポーツ関係者によるボランティア活動、チャリティなども多く行われ、スポーツを通じた人びとへの励まし、共同体の再生への貢献などが盛んに取り沙汰されている。スポーツが私たちの社会の日常において重要な文化であるという認識は確実に広がっているといえよう。

他方で、一般的にメディアに表れるスポーツをめぐる言説は、批判的態度からはかけ離れ、スポーツを肯定的に捉え、国家や国民にとっての「効用」や「機能」を自明のごとく唱える場合がほとんどである。そのような立場からは、近代スポーツ文化を相対化し、日常に潜むスポーツをめぐるポリティクスを読み解いていく視点を導き出すことは、困難である。スポーツと国家、市民生活が密接に編み合わされている今だからこそ、これらのポリティクスを読み解いていくことは重要であろう。

「スポーツについての知識は社会についての知識」(N. Elias)であり、スポーツが「社会の価値の器」(E. Snyder/ L. Salis)であると考えられるならば、現在のスポーツをめぐる状況にはどのような社会的価値が反映されているのか、私たちの社会が(あるいは時代が)求めている／強いられているスポーツとはどのようなものなのか、そしてそのようなスポーツを求める私たちの社会はどのような社会なのか、今一度問い直すことが求められているといえよう。

シンポジウムでは、これらの問いに迫るべく、法制度、市民の実践、思想などの多角的な側面から論者を迎え、「政治とスポーツ」について議論する場としたい。

【シンポジスト】

齊藤健司(筑波大学／スポーツ政策・スポーツ法)

尾崎正峰(一橋大学／地域スポーツ・社会教育)

中島信博(東北大学／地域社会・地域開発とスポーツ)

【コメンテーター】

山下高行(立命館大学)

伊藤公雄(京都大学)

【コーディネーター】

坂 なつこ(一橋大学)

【テーマ】 「生活農業論」から見た地域社会の変化

【演者】 徳野 貞雄(熊本大学・文学部・教授、農村社会学者)

【講演概要】

1. はじめに ～スポーツ社会学と地域社会の雑感～
「中学生における部活動と社会規範」「地域スポーツにおける統合と分化」
「カネのない時代(昭和20年代)の遊びとスポーツ」
2. 「生活」概念の再検討
 - 1)東日本大震災を契機として、①「生きる」、②「生き続ける」、③「クラシの手段」
 - 2)①ヒトの力、②モノの力、③カネの力、
 - 3)図A-人間の生活要件図
3. 『生活農業論』とは何か。
 - 1)生産力農業論(モノとカネ中心の概念)vs 生活農業論(モノ・カネ+ヒト・クラシ)
「農業が変わったのではなく、人間のクラシが変わった」
「図2-3:生活農業論分析のパラダイム」
 - 2)「生活農業論」から見た「食と農」
「米とごはんは違う」「世帯類型の極小化と米の消費量(図1-4)」
「農の6次産業化と食料費の最終支出割合の変化(豊かさの変化)」
「消費者の4類型(分裂型消費者の国、図4-1)」
 - 3)「生活農業論」から見た農山村社会
「T型集落点検から見た限界集落(世帯類型と他出子の存在)」
「過疎農山村の高齢者における農作業の意味」
「小規模・高齢化集落の分析図とその存続要件(図B)」
「過疎農山村における「中核世帯」と「生活婚」
4. まとめ
『農村の幸せ、都会の幸せ』を再考する。都市・農村の生活指標(図6-2)

※ 図表につきましては講演当日に配布いたします。

【テーマ】

アジアからみた開発とスポーツ

【シンポジスト】

Jay Mandle 氏(コルゲート大経済学部・教授)

金 明美氏(静岡大学・情報学部・准教授)

石岡 丈昇氏(北海道大学大学院・教育学院・助教)

世話人：山崎貴史（筑波大学大学院） 黒須朱莉（一橋大学大学院） 鈴木楓太（一橋大学大学院）

- ◆ 日時 2012年3月18日(日) 11:00~12:30
- ◆ 場所 熊本大学 会場 A:2B
- ◆ テーマ 選別装置としてのスポーツ
- ◆ 登壇者 原口剛氏（大阪市立大学都市研究プラザ研究員 都市社会地理学）
- ◆ 司会 鈴木楓太（一橋大学大学院）
- ◆ コメンテーター 植田俊（筑波大学大学院） 山崎貴史（筑波大学大学院）

内容

学生フォーラムでは、都市社会地理学を専攻されている原口剛氏をお招きし、都市の開発の手段としてのスポーツについて考えてみたいと思います。近年、東京都によるオリンピック招致を背景に、スポーツによる開発が都市や地域社会へ与えるインパクトに関する研究が盛んに行われています。それらは、都市や地域社会の「空間的・地理的改変」の議論から、当該地で暮らす人びとへのインパクトの実証へと展開しつつあります。

本フォーラムでは、これまでのスポーツ開発の議論を踏まえつつ、スポーツが誰を都市にふさわしい者として、誰をふさわしくない者として選別しているのか、そしてこの選別の過程を通して排除される人びとに焦点をあててみたいと思います。原口氏は、「都市のイマジニアリングと野宿生活者の排除—1980年代以降の大阪を事例として—」のなかで、スポーツイベントを契機とした野宿生活者の公園からの強制撤去を事例に、都市における選別と排除の過程を描き出しています。当日は、原口氏から大阪での野宿生活者排除の事例を中心としつつ、豎川のスポーツ公園建設による野宿生活者の排除、宮下公園のNIKEによる有料化といった近年の事例を含めて報告いただき、野宿生活者という（スポーツ実践からも）周縁化された人びとをスポーツ社会学においてどのようにテーマ化できるかをフロアの皆さんと一緒に議論したいと思います。下記の文献を読んだ上で、是非ご参加ください。

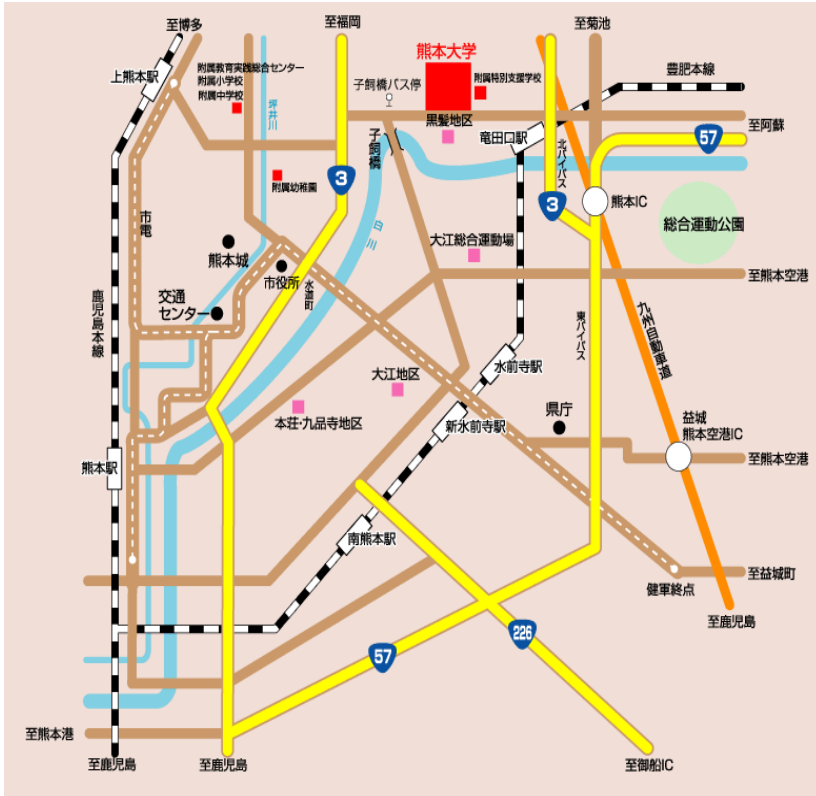
参考文献

原口剛, 2008, 「都市のイマジニアリングと野宿生活者の排除—1980年代以降の大阪を事例として—」, 『龍谷大学経済論集』47(5): 29-46.

Marthy. RM., 2003, “Christmas Dinner: The Effect of Major Sporting Events on Local Homelessness”, in Wilcox et al (eds) , Sporting Dystopia, State University of New York Press: New York, 81-94.

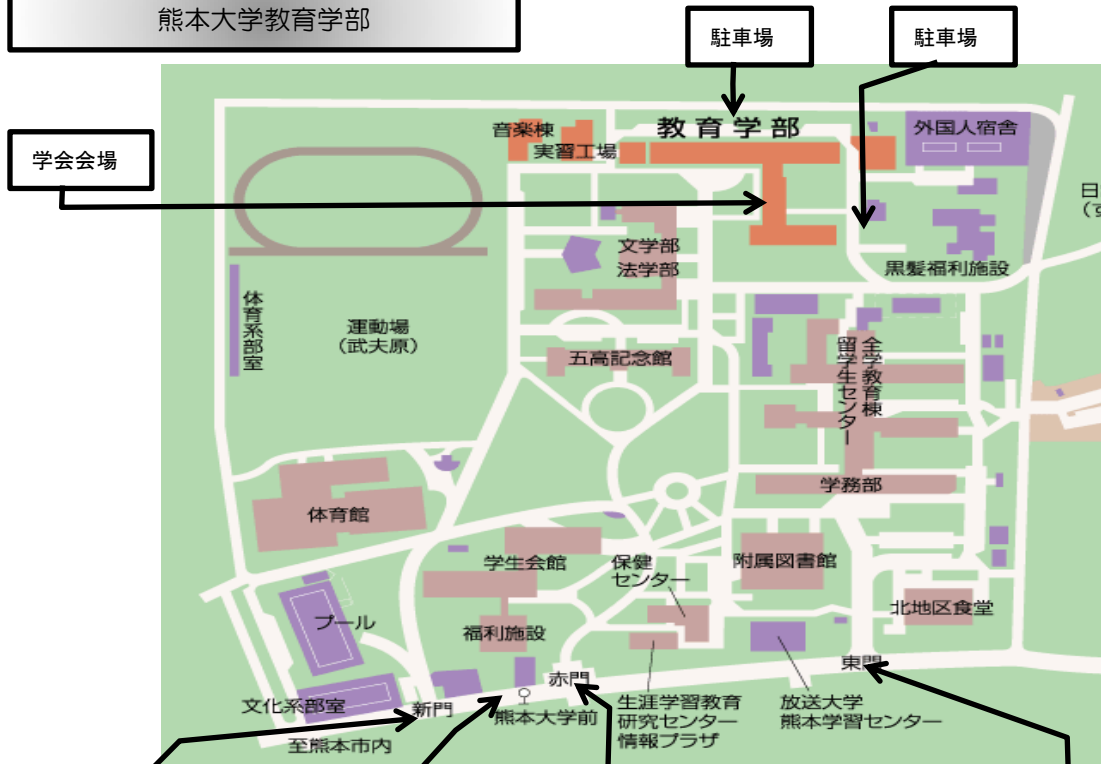
会場案内

熊本大学黒髪北キャンパス



- ☆熊本駅から(約三〇分)
産交バス楠団地、武蔵ヶ丘方面行き「熊本大学前」下車
熊本市バス第1環状線「子飼橋」下車・徒歩二〇分
- ☆熊本空港から
熊本市内行きリムジンバスをご利用ください。市内中心まで四〇分ほどです。
通町筋・交通センター・熊本駅に止まります。
- ☆交通センターから(市役所前・通町筋・水道町を経由します。約一五分〜二〇分)
産交バス楠団地、武蔵ヶ丘方面行き「熊本大学前」下車
- ☆竜田口駅(豊肥本線)から
産交バス交通センター行き「熊本大学前」下車

熊本大学教育学部



車の入講はできません。

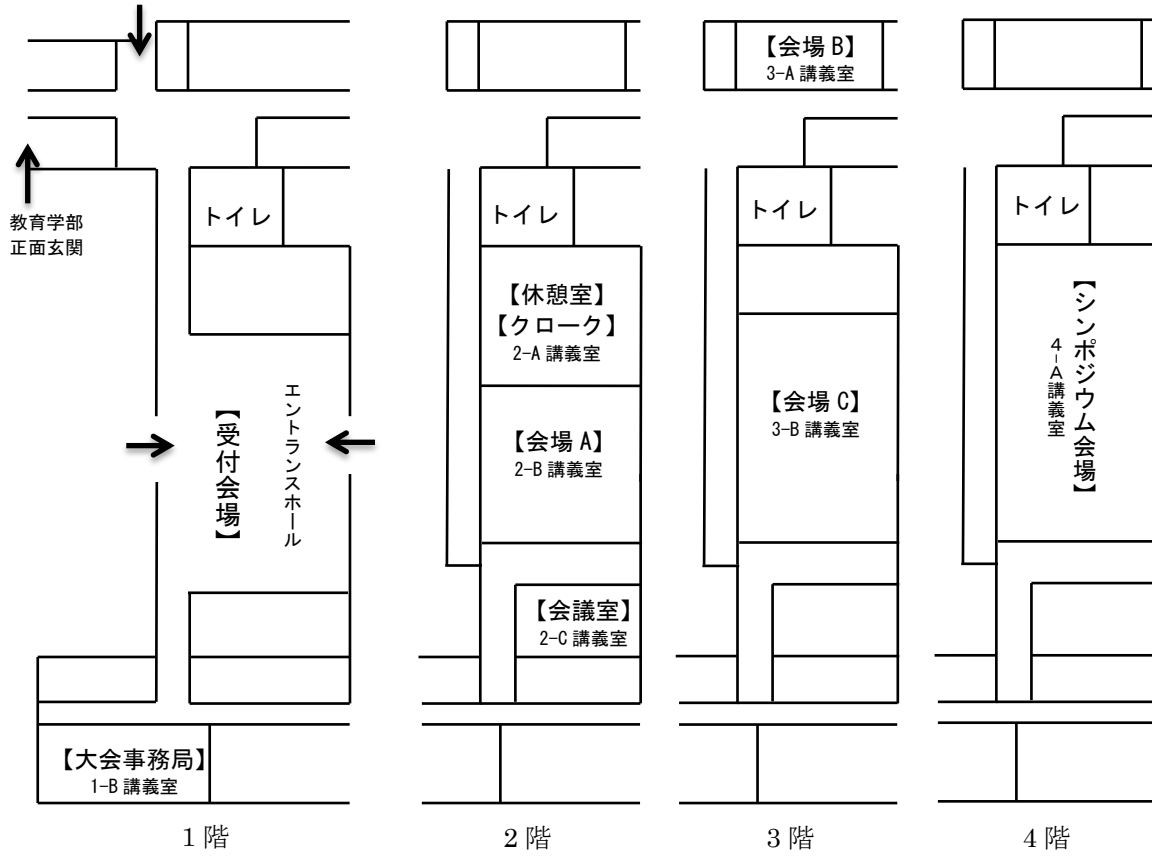
バス停

徒歩の方はここからお入りください。

車の方は、守衛室で手続きの上、こちらからお入りください。

会場案内

教育学部内会場図



懇親会場(メルパルク熊本)



「懇親会場」メルパルク熊本
 「住所」熊本県熊本市水道町二十一
 「電話」096-355-6311
 「アクセス」バス：「熊本大学前」から「水道町」下車 所要時間約一〇分
 徒歩：約三十五分(受付で地図をお渡しします)